

会議結果のお知らせ

宮古市水産振興ビジョン策定委員会第1回委員会を次のとおり開催しました。

令和6年8月7日

宮古市水産振興ビジョン策定委員会

- 1 開催日時
令和6年8月2日（金）午後3時00分～午後3時50分
- 2 開催場所
宮古市役所2階 2-1会議室
- 3 議題
(1) 宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について
(2) 現宮古市水産振興ビジョンの実績検証について
(3) 宮古市水産振興ビジョン骨子（案）について
- 4 会議の概要
各委員に委嘱状を交付した後、会長及び副会長を選任し、議題について説明した。
詳細は、別添のとおり。
- 5 問い合わせ先
宮古市産業振興部水産課水産振興係 電話0193-62-2111

宮古市水産振興ビジョン策定委員会第1回委員会

1 出席者（9名）

湯浅啓、佐藤一彰、前田宏紀、畠山格久司、藤原修一、伊藤稔、佐々木元、盛合敏子、伊藤隆司

2 欠席者（6名）

伊藤道夫、寺井繁、佐々木克敏、須藤一保、八木澤節子、大澤糸子

3 事務局出席者（4名）

産業振興部農林水産振興次長 飛澤寛一、産業振興部水産課長 中西秀彦、
産業振興部水産課水産振興係長 中野昇二、
産業振興部水産課水産振興係主任 佐々木大輔

4 傍聴者

なし

5 議事等

○委嘱状交付

市長、副市長、産業振興部長は別用務により欠席のため、飛澤農林水産振興次長より出席者に対し委嘱状を交付した。

○委員長及び副委員長の選出

立候補者がいなかったことから、事務局案として、委員長に「宮古漁業協同組合 寺井参事」、副委員長に「宮古水産振興センター 佐藤所長」を提案したところ、委員より承認された。

○議事

(1) 宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について

宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について、事務局から説明した。

(2) 現宮古市水産振興ビジョンの実績検証について

現宮古市水産振興ビジョンの実績検証について、事務局から説明した。

(3) 宮古市水産振興ビジョン骨子（案）について

宮古市水産振興ビジョン骨子（案）について、事務局から説明した。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【議題(1)「宮古市産業立市ビジョン等の策定方針について」】</p> <p>《質疑なし》</p> <p>【議題(2)「現宮古市水産振興ビジョンの実績検証について」】</p> <p>(委員)</p> <p>令和5年度の魚市場水揚額は、過去5年間で最も高かった、その理由は単価が高かったからとのことでした。全体の水揚額はいくらだったのでしょうか。</p> <p>(委員)</p> <p>養殖生産量が減少したという結果について、わかめの出荷が遅れたためとのことでしたが、それ以外のホタテやカキの状況はいかがでしょうか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>約58億円です。「宮古の水産」という資料を毎年作成しています。次回会議の際に完成していればお配りしたいと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>ワカメの出荷が年度を超えてしまったので、数字上は減ったように見えてしまうということをご説明させていただきました。ご質問の内容は、それ以外のものはどうかということだと思います。カキ等についてはそれほど大きく変化していないのですが、今一番心配しているのはホタテです。高水温のためだと思いますが、ホタテがへい死しているという話を伺いました。生産者の方に伺ったところ、良い棚で4割ほどしか残っていない、悪いところでは9割が死滅していると聞いています。今年度は、春先から貝毒により出荷がままならない状況が続いていて厳しいとのことでした。今年度は、カキもだいぶ長い期間出荷停止となっていました。その後解除になっていますので、カキについては良くなってきたのかなと思っています。</p>

(委員)

昆布の状況はいかがでしょうか。

(委員)

令和5年度養殖業生産量の出し方は、R5.4.1～R6.3.31を対象期間としているということで良いのでしょうか。年度をまたいでいるとはいえ、極端に少ない気がします。田老でも減産にはなっているけれど、そこまでではないと思います。

【議題(3)「宮古市水産振興ビジョン骨子(案)について」】

(委員)

事務局の資料の内容については、全くその通りだと思います。できれば具体的に何をどのようにというところまで記載があると良いと思います。組合員は減少しており、高齢化も進んでいます。作業の効率化・軽作業化を支援するとは、何をどのように行うのか、具体的に進めていかなければいけないのではないかと思います。現況の補助に加えて、今後は制度の拡大や拡充をしてほしいとい

(事務局)

昆布は、今収穫時期真っ只中ですのでわかりませんが、2月の時化で重茂は2つの桁が被害を受けたとのこと。田老は、桁ごと全部被害を受けたわけではなかったはず。桁の一部と聞いています。どれくらい減産になるかわかりませんが、重茂については少し量が減るだろうと想定しています。しかし、値段は上がるだろうと思っています。北海道でも不漁となり、同様の現象が起きているようです。獲れる人は、値段でカバーできるくらいになるのではないかと思います。近々入札が行われると聞いていますので、その結果を次回会議でお知らせできればと思います。

(事務局)

数字は、各漁協からいただいている業務報告書の数字を拾ったものです。重茂の分の減産が大きく影響しているのかもしれませんが。生産量そのものが大きく減ったというのではなく、出荷の時期がずれたことによるものだと認識しています。

う希望もあります。流通加工体制の整備については、全くこの通りですが、サケ・サンマ・スルメの状況が良くないというのは、報道でも言われています。宮古市も魚種変更等の検討が必要なのではないのでしょうか。廻来船の誘致もサンマ船だけでなく、以前のようにイワシの旋網船を受け入れることができないものなのでしょうか。

新聞によると、大船渡や気仙沼はカツオが大漁のようです。宮古市についても、主力魚種とは違う船の誘致を検討した方が良いのではないかという希望をお話します。海が元気でなければ陸も元気になりません。特に、宮古市のように第1次産業の漁業に頼っているところはそうだと思います。やれる範囲から早めにというのを希望します。

(意見)

(委員)

委員の意見に賛成です。これからの話になると思いますが、各項目について具体的に検討していった方が良いと思いました。養殖等の「つくり育てる漁業」とは、具体的にどんな魚種を対象に考えていくのかということや、流通体制の整備とはどこでの流通を想定しているのか、県内なのか都心なのかというようなことです。気候変動により獲れる魚種が変わってきているので、獲れるものを活用していくしかないと思います。その際、どのような方向性で流通させていけば高く売れるのか等を考えていく必要があると思います。(意見)

(事務局)

委員の皆様が言われたことは、全くその通りだと思います。

第2回の会議を9月に予定しています。その際には、より細かい資料を出したいと思っています。ぜひ、それまでの間に皆様からご意見をいただきたいです。特に水産業は、今劇的な変化の中にいるのだと思いますし、今までやってきたことでは対応しきれないことがたくさんあるのだろうと思っています。私たちでは想像できないこともたくさんありますので、皆様のご意見や気づいたことをどんどん教えていただき、計画を作っていきたいと思います。

皆様からの意見は、計画だけでなくいろいろなところに反映させていきたいと思っています。どんな細かいことでも結構ですので、教えていただければと思います。

(委員)

委員はもちろんだけれど、漁船漁業者、養殖漁業者等いろいろな方がいますので、現場の方から今困っていることや希望したいものを聞いた方が計画策定の参考になる気がします。大変だとは思いますが、初めから高くは掲げないで、やれる部分から着実にやっていくのが良いと思います。 (意見)